

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語38人

② 算数38人

5 留意事項

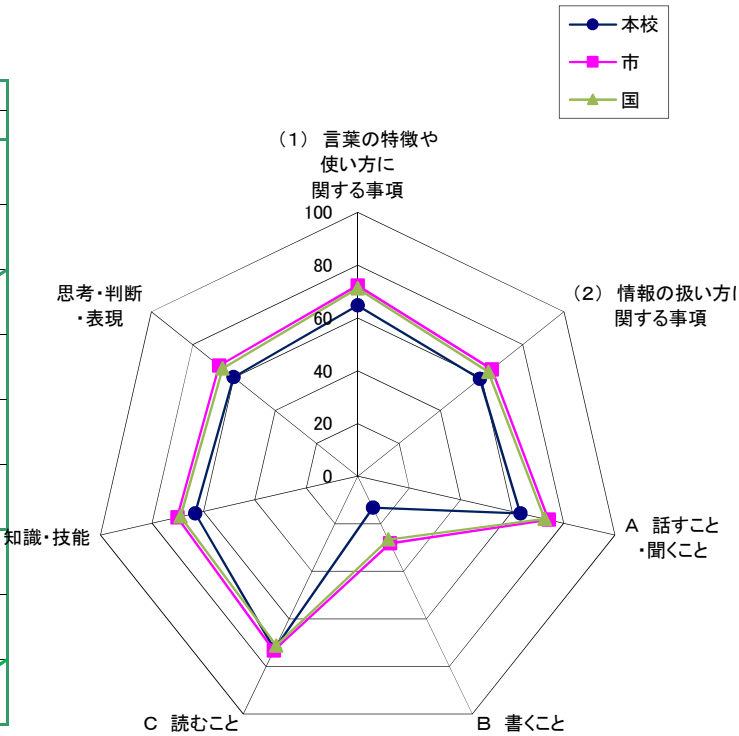
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	64.7	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	59.2	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	63.2	74.2	72.6
	B 書くこと	13.2	28.2	26.7
	C 読むこと	72.8	73.3	71.2
観点	知識・技能	63.2	70.2	68.9
	思考・判断・表現	60.2	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

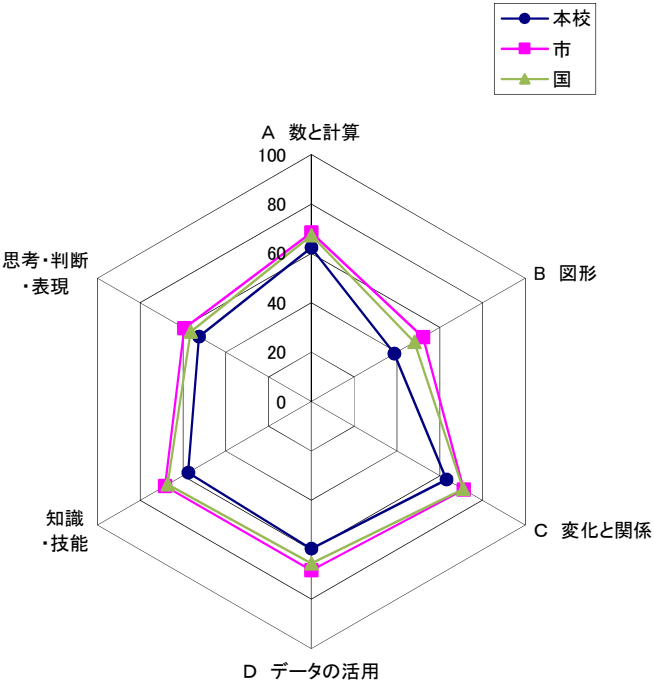
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は64.7%で、国の平均より低い。 ○日常でよく使われる敬語を理解しているかどうかをみる設問の正答率が57.9%で国の平均より0.3ポイント高い。 ●漢字を文の中で正しく使う設問3問のうち1問の正答率は34.2%で、国の平均より18.6ポイントとかなり低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小テストやAIDドリルを活用し、正しい漢字が習得できるように継続的に取り組む。 ・文章の意図を正しく理解し、同音異義語を正しく書くことができるように指導する。 ・語彙力を高めるために、新出語を使って短文作りをしたり、語彙コーナーを教室に掲示したりする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は59.2%で、国の平均より低い。 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる設問の正答率は65.8%で、国の平均より1.1ポイント高い。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解しているかどうかをみる設問の正答率は52.6%で、国の平均より	・因果関係を正しく捉えることができるよう、物事の原因と結果をつなげて考えることができるような説明文の読み取り方について、国語の授業の中で継続的に指導していく。 ・本や新聞、雑誌、インターネットなど様々なメディアから情報を得る際は、目的に応じて中心となる語や文を捉え、必要な情報を見つけ、正しく読み取る能力を育成していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は63.2%で、国の平均より低い。 ●必要のことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる設問の正答率は60.5%で、国の平均より13.5ポイント低い。	・話の要点や話し手の意図に気を付けながら聞き取ることができるよう、今後も、国語や学級活動の話し合いの場など、またはそれ以外の教科の授業の中でも指導していく。 ・日常的にスピーチをする機会を設けることで、相手の話をよく聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめ、表現する力を育成していく。
B 書くこと	平均正答率は13.2%で、国の平均よりかなり低い。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問の正答率は13.2%で、国の平均より13.5ポイント低い。目的に合った文章を書くことに課題がある。	・まずは、短文を読ませ、何が書いてあるのか読み取るという基本的な指導から始めたい。 ・書き手にどのような意図があるか、またどのような考えをもっているかを読み取るよう、国語の教材文を通して読解力を高めしていく。 ・図表やグラフなどの資料を読み取り、まとめて書く活動を取り入れていく。
C 読むこと	平均正答率は72.8%で、国の平均よりやや高い。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる設問の正答率は81.6%で、国の平均より14.2ポイントとかなり高い。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問の正答率は44.7%で、国の平均より11.5ポイント低い。	・ポスターやパンフレットなどから、必要な情報を見付けることはできているので、今後も係活動や委員会活動で生かし、表現する力を育成していく。 ・自分の考えを書くことに抵抗感をもつ児童が多いので、授業の振り返りや日記などを書く機会を増やし、短文から自分の考えを表現する機会を多く設ける。また、よい考えや文章を紹介することで、書くことに自信をもたせていきたい。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	62.3	68.4	67.3
	B 図形	38.8	52.2	48.2
	C 測定			
	D 変化と関係	63.2	71.2	70.9
	E データの活用	59.6	68.3	65.5
観点	知識・技能	57.6	68.4	67.2
	思考・判断・表現	52.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は62.3%で、国の平均より5.0ポイント低い。 ○示された日常生活の場面を解釈し、少数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる問題は国の平均より1.2ポイント高い。 ●加法と乗法の混合した計算をしたり整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題は国の平均より11.9ポイント低い。	・基本的な四則計算はできるが、示された計算の仕方を解釈して、さらに計算したり計算の仕方を記述したりする問題に対しては課題がある。文章題などを活用し、立式や数字の表す意味を考える学習を取り入れ、課題解決の力の定着を図る。
B 図形	平均正答率は38.8%で、国の平均より9.4ポイント低い。 ○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る問題では国の平均より0.3ポイント高い。 ●正三角形の意味や性質について理解しているかどうかを見る問題では、国の平均より14.4ポイント低い。	・正三角形や正方形の意味や性質などの基本的な知識の定着をさらに図る。 ・自分の考えを言葉や式、図を使って説明する学習を多く設定し、記述をして説明する力を育てるようにする。 ・箱を実際に開いてみたり、図形の動画を見たりするなどの授業を展開し、視覚的に図形の特徴を理解できるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は63.2%で、国の平均より7.7ポイント低い。 ●百分率で表された割合について理解しているかどうかを見る問題では、国の平均より14.4ポイント低い。	・割合や単位量当たりの大きさの学習では、立式はできても商が何を表すのか理解が曖昧になってしまう児童も多いので、立式する前に数直線に表す活動を意図的に取り入れたり、図に表す活動を取り入れたり、単位を意識させたりして、問題や商の意味を確実に読み取る力を身に付けられるよう、計画的・継続的に指導を行っていく。
D データの活用	平均正答率は59.6%で、国の平均より5.9ポイント低い。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかを見る問題では、国の平均より9.3ポイント低い。	・今後も、データの見方や表などからデータを読み取ることなど基本的な知識の定着に向けた学習を継続する。 ・整理したデータは何を示しているのか、集めたデータから分かることは何かなど、話し合う学習を通して問題場面の背景を理解し、情報を整理する力を身に付けさせたい。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「朝食を毎日食べている」と肯定的回答した児童の割合が94.7%で、全国平均よりも11.0ポイント高く、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている、起きている」の肯定的回答をした児童の割合がどちらも8割を超えており、家庭での生活習慣が身に付いている様子が見られた。今後も、規則正しい生活習慣を意識して継続できるように指導にあたる。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と肯定的回答をした児童の割合は71.0%で、全国平均と比べるとほぼ同じ。また、「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合が57.9%で、全国平均よりも26.4ポイント高く、児童が家庭での学習に対して復習や自主学習など、学年相応の時間(70分)を目安に意欲的に取り組んでいると思われる。

○「自分には、よいところがあると思う」と肯定的回答をした児童の割合は、94.8%であった。また、「先生は良いところを認めてくれている」と肯定的回答をした児童の割合は、94.7%であった。自己肯定感が高い児童が多いことがうかがえる。今後も学校生活の中で、児童のよさを認め、伸ばしていく指導を心掛けたい。

○国語について「大切」と肯定的回答をした児童の割合は100%、「内容がよく分かる」「将来役立つ」と肯定的回答をした児童の割合は、どちらも90%以上で、国語の学習に前向きに取り組んでいることがわかる。今後も、児童が「分かる」授業、生活の中で活かすことができる授業づくりを行っていく。

○「学校の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と肯定的回答をした児童の割合は、100%であった。今後も、授業の中で効果的に活用し、学習内容の定着につなげていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、読書しますか」の質問に「10分より少ない・全くしない」と回答した児童の割合が44.7%で、本を読む習慣が身に付いておらず、読書への関心が低いことが分かる。学級文庫や巡回図書を活用、図書委員会による読み聞かせなどを行い、読書の魅力や大切さを児童に伝えながら、読書への興味・関心の向上に繋げたい。

●「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的回答をした児童の割合は89.5%で9割近い結果ではあるが、全国平均よりも2.1ポイント低い。今後さらに、学級での生活、クラブや委員会活動、縦割り班活動などの様々な場面において、周りを見て自分から進んで行動できるよう、見守ったり言葉かけ(助言や称賛)をしていきたい。

宇都宮市立白沢小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実・言語活動の質的向上	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現の仕方を指導している。	「読むこと」の3問中2問で、国の平均を上回った。 言葉の特徴や使い方に関する事項で、漢字に書き直す設問で国の平均を下回った。また、記述の設問は、無回答率が高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語、算数どちらの教科でも記述の問題で課題が見られる。	・語彙力を強化するための読書活動の充実 ・各教科で自分の考えを文章で説明することの積み重ね。	全校を通して「奨励図書」を示し、読書記録のやり方を改善していくことで、読書内容の充実と読書量の増加を促し、語彙力の強化を図れるようにする。また、継続して主体的・対話的な授業を実践することで、自分の考えを周りに伝えるように話したり、文章で表したりすることができるようにしていく。